

【24】熱海の土石流災害に想う

梅雨末期の7月3日、温泉行楽地として有名な熱海市（静岡県）に土石流が発生し、百数十戸の建物が全半壊し、30人近くの死者・行方不明者を生じました。被災された地域の方々にお見舞とお悔やみを申し上げます。

山国の日本には全国で数十万箇所のにぼる土砂災害危険区域があり、今回の場所も“土砂災害危険渓流”に指定され、行政機関はその危険性を知識として知っていました。

しかし、関東で生活し、仕事をしてきた私でも、熱海の水害・土砂害というのはあまり聞いたことがありません。数年前、台風の高波で海岸沿いの道路やホテル、漁業施設が被害を受けたことがニュースになったくらいです。

JR 東海道線（在来線）で西下すると小田原駅から先は山地が海に近接し、斜面にミカン畑が広がり、ところどころに別荘や保養所の建物が点在し、今回の伊豆山地区や手前の湯河原のように狭い谷間には家屋がビッシリ建っていて、よく考えると基本的に災害の生じ易い地形です。

商売柄、水災害や防災については小うるさいことを言い続けてきた私も、風光明媚な湘南海岸の美しさや熱海の温泉地としての名声に圧倒されてか、この地域に現実の危険が迫っていると思ったことはありませんでした。今回の土石流の原因は豪雨というより、捨土による谷間の埋立という人為的な要素が大きいようですが、山地の急斜面の下や溪流沿いの土地は危ないという本質的な地形の特徴は忘れないようにしたいものです。